



過去と未来 水道事業60周年



昭和32年に事業が創設されて以来、今年で水道事業は60周年を迎えます。

いろいろなことがありました。給水を開始した頃は水が余っていて、水を買ってもらうために一軒一軒頼んで回りました。小郡・筑紫野ニュータウンの造成や開発団地の造成とともに給水エリアを拡大し、まちの成長とともに水道事業も成長してきました。

いいことだけではありませんでした。渇水による断水、寒波に伴う給水管凍結。市民の皆さんのご理解とご協力で支えられました。

皆さんとともに歩んだこれまでも、そして、ともに歩む未来へ。

水道事業の主な歴史

- 昭和32年 創設事業(当時は筑紫野町)
- 昭和34年 水呑ダム完成
- 昭和35年 第1浄水場完成、上水道給水開始
- 昭和45年 第2(山口)浄水場稼働開始
- 昭和53年 渇水により断水実施
- 昭和55年 山神ダム完成、山神水道企業団から受水開始
- 昭和58年 福岡地区水道企業団から受水開始
- 平成6年 平成6年(1994年)渇水により断水実施
- 平成9年 常松浄水場稼働開始
- 平成27年 水道料金コンビニ収納開始
- 平成28年 寒波に伴う給水管凍結
- 平成29年 水道事業開始60周年

写真の解説

60年前の筑紫野町の水道事業開始当時の写真です。

- 1 2 3 4 二日市周辺の工事の様子
- 5 水呑ダム コンクリート打ち
- 6 工事に携わる人たち
- 7 水呑ダム工事
- 8 筑紫野町役場前
- 9 筑紫野町上水道竣工式

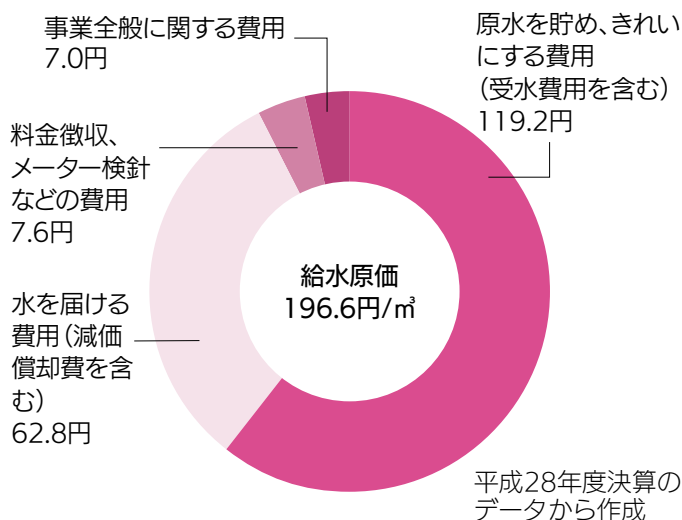
●問い合わせ先

上下水道料金総務課 財務管理担当
☎(923)7113

知っているようで知らないこと。
気になるけど聞けないこと。

知^しってほ^しい 水^{すい}道^{どう}のこと。

Q 水の原価っていくら？



A 1m³あたり
196.6円です

原価は水を取水、浄水する費用だけではありません。過去に施設の新設や更新をした際に発生した費用や、支払い利息などが含まれます。持続可能な経営のために、適正な水道料金の設定や長期的な事業計画を行っていきます。

また、筑紫野市は自己水源が少なく、全配水量の約80%を山神水道企業団や福岡地区水道企業団から受水しているため、その費用も含まれます。

水源名	給水エリア	計画取水量(m ³)	備考
福岡地区水道企業団 (筑後川)	主に二日市地区周辺	16,900	浄水受水
山神水道企業団 (山神ダム)	主に市の南部	7,100	浄水受水
常松水源 (地下水)	主に御笠地区	2,000	自己水源
水呑ダム	主に山口地区	4,000	自己水源

Q 本当に安心して飲めるの？

A 安心して下さい
飲めますよ

残留塩素や濁りなどを市内29カ所で毎日検査し、管理しています。また、一般細菌や大腸菌などは市内7カ所の給水栓、2カ所の浄水場で毎月検査しています。

水道水には必ず塩素消毒をしなければならないと水道法で定められていますが、カルキ臭が強いとおいしいとは思えないですね。おいしく飲んでもらえるように濃度を細かく見えています。

Q 水道の未来って
どうなの？

A 次のページで
お答えします

水道の未来へ

老朽管更新、耐震化に向けて

今、日本全国で水道管の老朽化が深刻な問題になって

知っているのを知っていますか？ 現在、全国に布設されている水道管の総延長は約66万km。そのうちの12%にあたる約8万kmが耐用年数を超過していることがわかってい

ます。これは地球を2周できる長さです。そして、それは筑紫野市においても例外ではありません。安全・安心な水道を提供できる未来へ、水道が抱える「課題」を、一緒に考えてみましょう。

人口と共に増えた水道管

筑紫野市では昭和32年の創設以来、水需要の増加に対応するために給水区域の拡張を行ってきました。

老朽管の更新

老朽管更新基本計画に基づき、2万2184・6mの水道管を更新しました。(表1) この7年間の概算事業費から更新した総延長を割ると、単純計算で1mあたり約4万3000円の事業費が必要ということがわかります。

大規模地震に備えて

また、東日本大震災や熊本地震などの大地震の際には大規模で長期的な断水が発生しています。(表2) 南海トラフ地震など、発生が想定される大規模な地震に備え、ライ

フラインを中心にした強じんな国づくりが求められる中で、水道管の耐震化も進める必要があります。

現在、かつて使われていた衝撃に弱い铸铁管に替わり強度などを改良したダクタイル

铸铁管が主に使われて

設し、耐震化を進めています。

長期的、計画的な更新を

公営企業である水道事業は、税金ではなく、皆さんに支払っていただいている水道料金などを財源としています。今後、人口が減少すれば水需要も減少します。それはつまり、水道料金による収入も減少することを意味します。日本において、人口減少という避けられない社会問題と向き合い、長期的、計画的な更新を行っていく必要があります。

今の時代、当たり前のように水を使うことができますが、「当たり前」の環境を維持するために、多くの費用が発生します。今、そして子や孫、その先の世代へ。水道料金のお支払いや、水道管更新などの工事でご迷惑をおかけすることへのご理解、ご協力をよろしく願います。

表1 平成22年度以降の老朽管更新の進捗

整備年度	概算事業費(千円)	延長(m)
平成22年度	137,318	3,815.5
平成23年度	107,336	2,718.7
平成24年度	147,377	2,174.9
平成25年度	104,844	2,639.7
平成26年度	105,004	2,429.3
平成27年度	90,030	2,255.5
平成28年度	258,740	6,151.0
合計	950,649	22,184.6

表2 最近の主な地震と水道の被害状況

地震名など	発生年	最大震度	地震規模(M)	断水戸数	最大断水日数
阪神・淡路大震災	平成7年	7	7.3	約130万戸	90日
新潟県中越地震	平成16年	7	6.8	約13万戸	約1カ月
東日本大震災	平成23年	7	9.0	約256.7万戸	約5カ月
熊本地震	平成28年	7	7.3	約44.6万戸	約3カ月半



山口浄水場 (大字山口2066)

水質良好・緩速ろ過 でおなじみの山口浄水場の 水でおいしいサイダー 作りしました！

緩速ろ過をご存じですか？ 現在は塩素などの化学薬品を使つてろ過をする「急速ろ過」が主流ですが、まだ川の水がきれいな戦前の日本では、微生物の分解作用を利用してろ過をする緩速ろ過がほとんどでした。

公害問題などが深刻になり、水の汚染がひどいものになると緩速ろ過では処理できなくなるため、急速ろ過を採用する浄水場が増えてきました。

また、処理に広い面積を要する一方、処理のスピードは急速ろ過に比べて大きく劣るため、緩速ろ過で浄水される水は日本全国の浄水量のうち、約5%にすぎません。

言い換えると、緩速ろ過を採用できるということは、水質が良好だということです。また、水道法で定められている塩素での殺菌を除いて薬品を使わないため、カルキ臭さもありません。山口浄水場は緩速ろ過によって浄水しているため、水がおいしいのです。このことを皆さんにもっと知ってもらうため、山口浄水場の水を使ってサイダーを作りました。イベントなどで配布しますので、ぜひ飲んでみてくださいがいね！



7 梱包前、入念にチェック！



6 ビンにラベルを貼ります



2 佐賀県小城市の工場に水を運ぶ



1 山口浄水場からサイダーに使用する水を取水



3 工場でサイダー製造スタート！



4 ビンを洗浄します



5 ビンにサイダーを充填します

市のイベントで水道サイダーを配布します！

10月21日(土)、22日(日)のパープルプラザフェスタ、11月11日(土)の環境フェア(ともに生涯学習センター)にて、3日間限定で水道サイダーを配布します。



水道サイダーを製作した株式会社友樹飲料の野口さん

衛生面には細心の注意を払っていますので安心して飲んでくださいね！



8 完成！